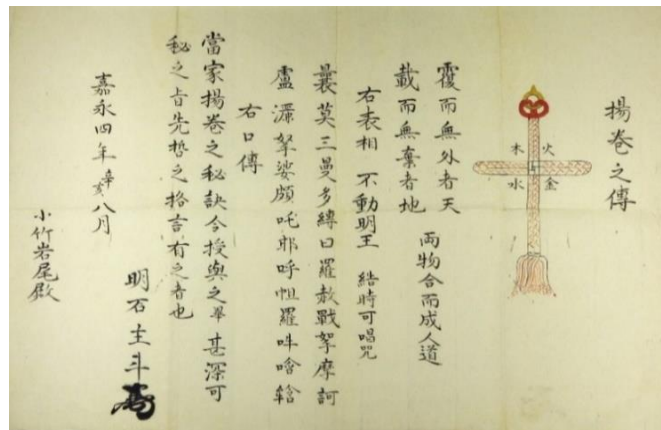


令和7年度春季展

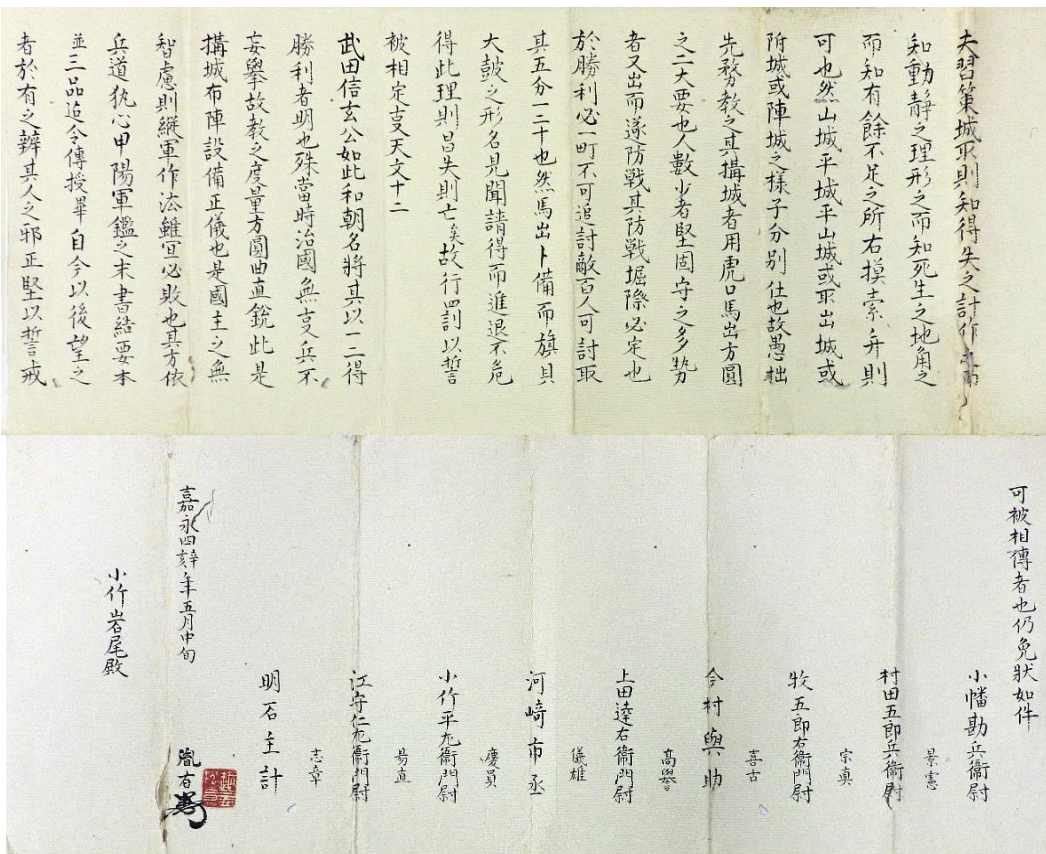
小竹家文書展



當家兜緒伝 (090-1827-18)



揚卷之伝 (090-1827-19①)

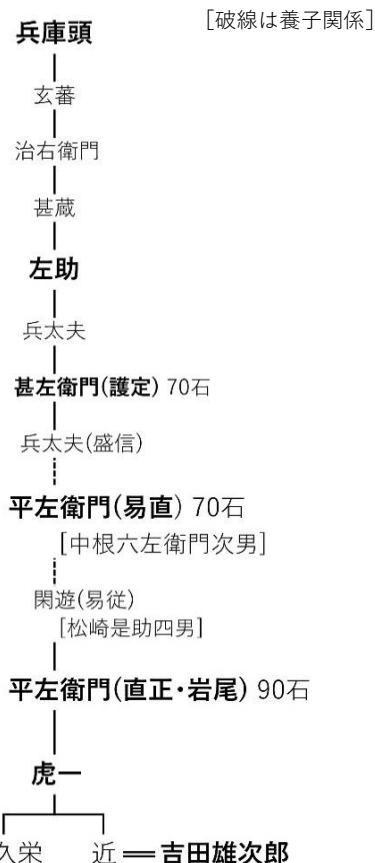


城取免状 (090-1827-17)
[下半は上下反転]

令和7年4月29日(火・祝) ～ 令和7年6月22日(日)

金沢市立玉川図書館 近世史料館

小竹家略系図

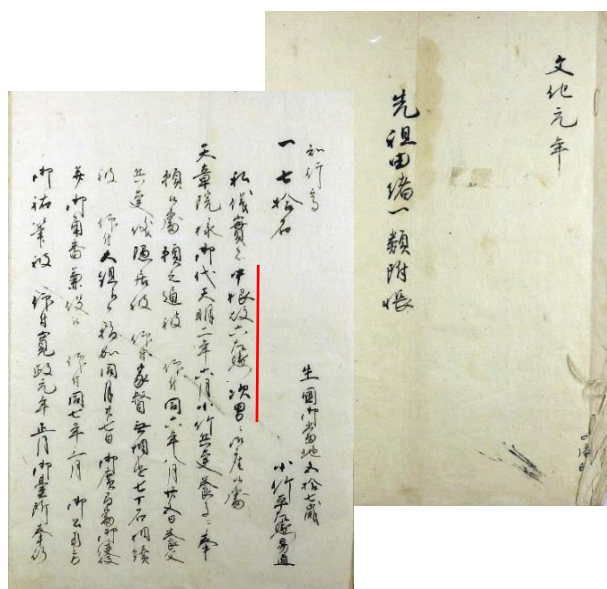


はじめに

この度当館に寄贈された小竹家文書は、近世の武芸関係史料及び、近代の小竹近やその夫・吉田雄次郎の史料を中心とした400点以上の史料群です。

近世の小竹家は加賀八家本多家の家臣の家です。寛延2年(1749)5月に出された小竹護定(甚左衛門)の由緒帳(090-1827-51)によりますと、6世祖父・小竹兵庫頭が「富山小竹村」に住んでいたことが分かります。そして祖父・左助の代に「浄名(明)院様御代」と記載されていることから本多家2代政長(正保4年[1647]相続、宝永5年[1708]没)の代に家臣になったことが読み取れます。

今回の展示では、小竹家に伝わった近世の武芸関係史料と近代の新聞事業関係史料を中心に展示・紹介します。

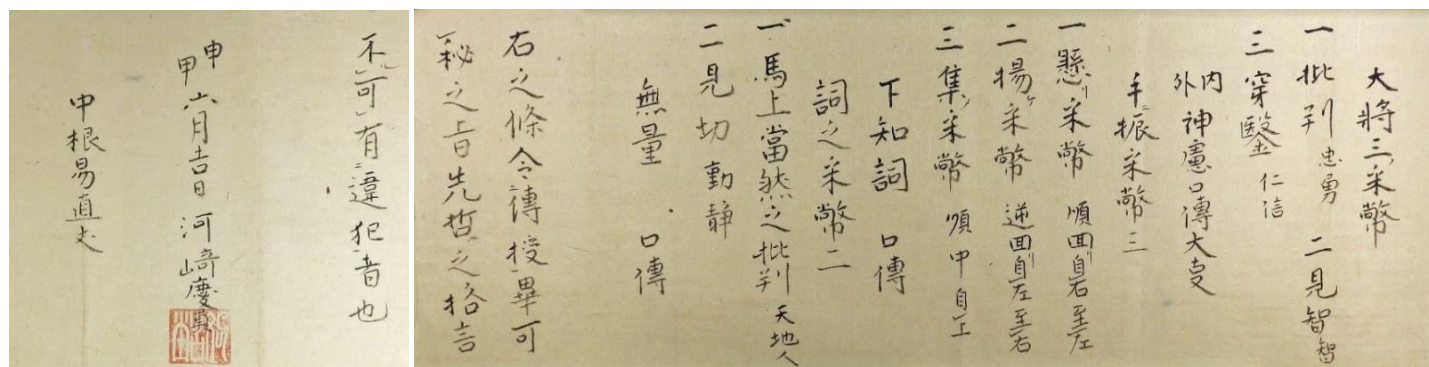


先祖由緒一類附帳 (090-1827-55)

小竹易直

武芸関係の史料の多くは小竹易直(平左衛門)の時代のもので、易直は中根六左衛門の次男で、天明2年(1782)に小竹盛信の養子になります。中根家は小竹家と同じく本多家家臣です。易直は軍学指南をしていたようで、「甲陽軍鑑」の編者・小幡勘兵衛(景憲)の名が見える史料も複数あります。

下の史料「采幣伝」によると、易直は明和元年(1764)6月に河崎慶員から采幣について伝授されたことが分かります。河崎慶員は、表紙の「城取免状」等から河崎市丞と分かり、同人は「先祖由緒并一類附帳」(河崎多仲・加越能文庫)から本多家家臣です。



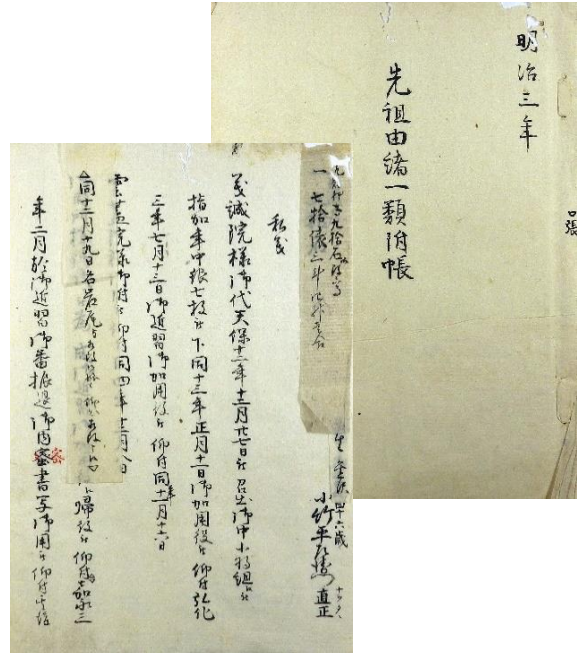
采幣伝 (090-1827-10)

※折紙を一部加工

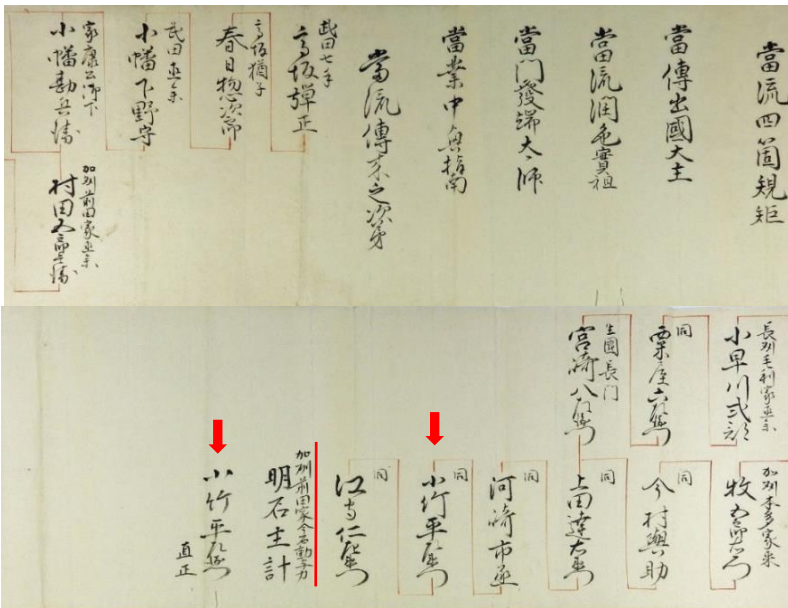
小竹直正

易直に続く武芸関係の史料は、孫・直正(平左衛門・岩尾)の代です。また、「当流四箇規矩並びに当流伝来之次第」(090-1827-23③)から直正の免状に易直(小竹平左衛門)の名前が見受けられます。

直正の師とみられる明石主計は同史料により今石動与力と分かります。同人は「先祖由緒并一類附帳」(明石貞男・加越能文庫)から本国が魚津の人物です。



先祖由緒一類附帳 (090-1827-58)

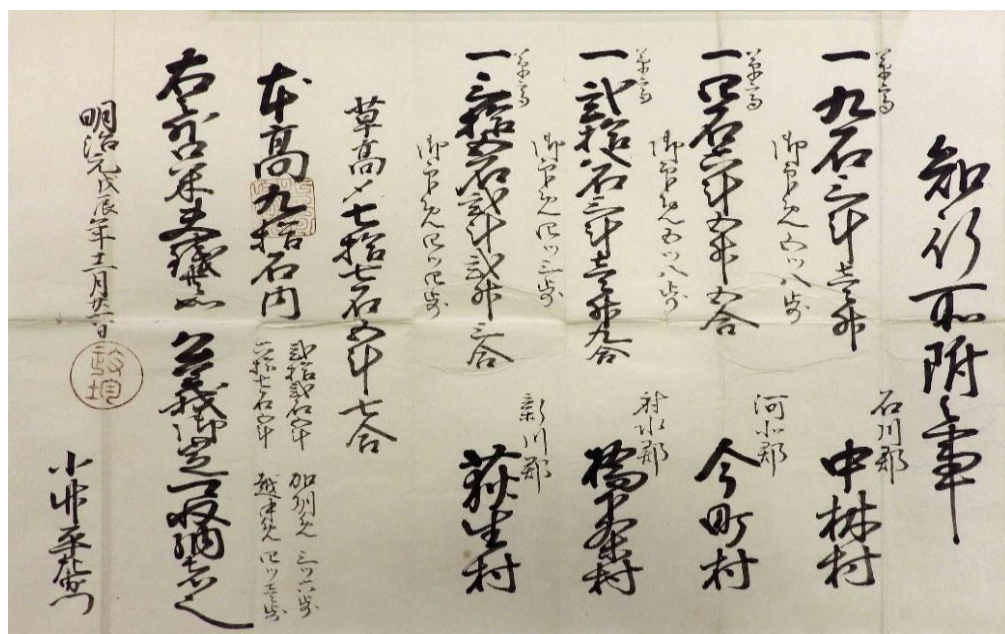


当流四箇規矩並びに当流伝来之次第 (090-1827-23③)

[下半は上下反転]

下の史料「本多政均知行所附之事」(090-1827-63)は、明治元年(1868)12月、直正が家督を相続し発給されたものです。

直正は本多家から石川郡中林村など4つの村のうち、合わせて90石の知行が与えられたことが分かります。



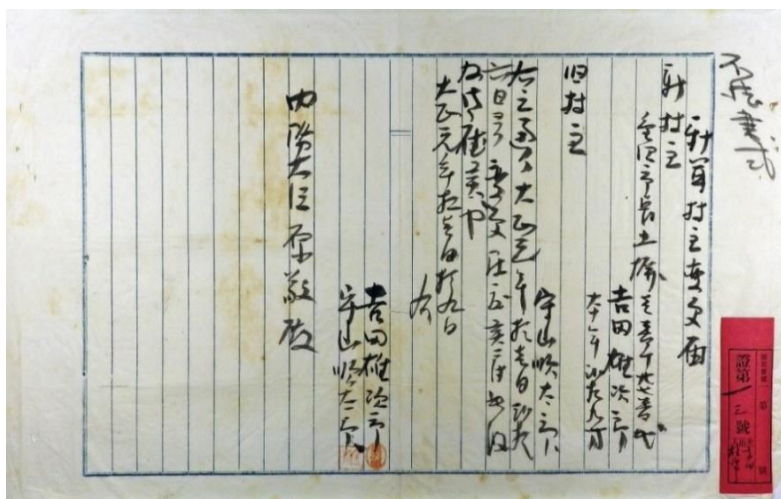
本多政均知行所附之事(090-1827-63)

吉田雄次郎

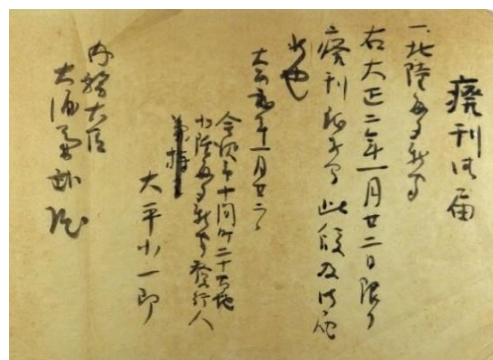
「吉田家由緒一類附」(090-1827-176)によりますと、吉田家の先祖は「三河吉田(現・愛知県豊橋市)」の出身で、後に藩の家老職・今枝家(人持14,000石)の家臣となります。今回の史料に出てくる吉田雄次郎は、小竹虎一の次女・近の夫にあたります。

ここでは新聞事業に参入した雄次郎と2つの新聞社についての史料を紹介します。

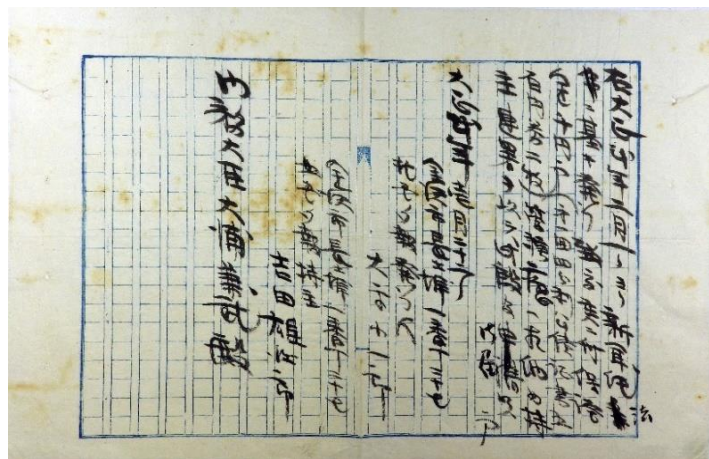
1つ目は北陸毎夕新聞です。雄次郎は大正元年(1912)11月19日に、守山順太郎に代わり同26日より持主変更の旨の願が出されますが、2ヶ月足らずで廃刊しています。



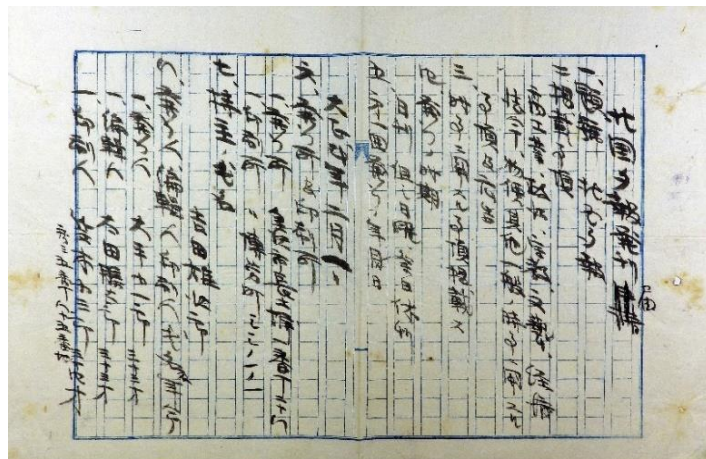
新聞持主変更届 (090-1827-201)



北陸毎夕新聞廃刊御届 (090-1827-207)

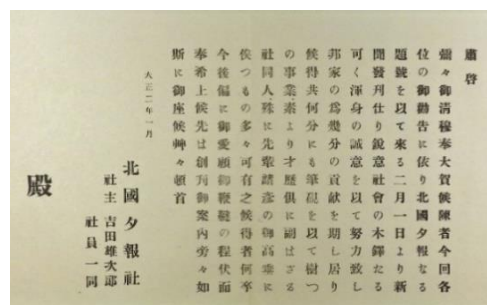


北国夕報発刊届 (090-1827-211)



2つ目は北国夕報社です。北陸毎夕新聞廃刊と時を同じくして、雄次郎は北国夕報持主として「北国夕報発刊届」(090-1827-211)を提出しています。

新聞紙法に則り、保証金は一部の有価証券での支払いも認められていたため、この時、雄次郎は四分利公債証書で納めています。



北国夕報創刊案内状 (090-1827-214)